

第 8 章

砂 防 課

夢のある砂防事業をめざして



《ダム上下流と自由に交流できる配慮》

ダムの上・下流と自由に交流できる配慮をした砂防ダム
～増田町・夏虫沢砂防ダムの完成イメージ図（平成7年度新規着手）～

1. 事務分掌

区 分	事 務 分 掌	人 員	備 考
総務担当	1. 課内における連絡調整に関すること。 2. 予算・決算に関すること。 3. 給与・旅費・物品・文書に関すること。 4. 砂防指定地等の管理に関すること。	4	主席 1 査 2 主任 1
砂防担当	砂防に関すること。	4	補佐(傾 斜地保 全)1 担当 2 主任 1
傾斜地保全担当	急傾斜地崩壊対策、地すべり対策、雪崩対策、砂防災害に関すること。	3	主査 2 技師 1

2. 砂防事業の概要

本県の河川の水源地および溪流は荒廃が甚だしく、特に融雪降雨に際し土石流による災害が頻々と発生している。砂防事業はこの土砂災害を防止するため砂防ダム工、砂防流路工等を溪流において施行するものである。本県における砂防事業の歴史は浅く、事業着手は昭和8年度である。以来、平成6年度までに事業費約1,210億円をもって砂防ダム工916基、砂防流路工延長約161kmを実施した。

(砂防事業の推移・公共事業)

年 度	平成2年度		平成3年度		平成4年度		平成5年度		平成6年度	
箇所数	工 事	工 事	工 事	工 事	工 事	工 事	工 事	工 事	工 事	工 事
	箇所数	完成数	箇所数	完成数	箇所数	完成数	箇所数	完成数	箇所数	完成数
	70	22	66	22	60	13	58	16	54	14
	25	4	29	4	34	4	35	6	39	10
事業費	6,885,000千円		6,417,100千円		7,789,000千円		8,847,000千円		6,808,000千円	

◎備考……① 上記表の上段は砂防ダム工、下段は砂防流路工を表わしたものである。

② 完成数以外は翌年度へ工事を継続するものである。

(砂防設備一覧表)

工 種	事業名	通常砂防	災害復旧	県 単	計	摘 要
ダ ム 工		916基	14基	9基	939基	
流 路 工		160,542.2 ^m	79,791.4 ^m	24,120.0 ^m	264,453.6 ^m	
護 岸 工		—	—	4,059.7 ^m	4,059.7 ^m	

平成7年3.31現在

(砂防指定地一覧表)

溪 流 数	箇 所 数	面 積(ha)
	(3)	(48.85)
1,046	1,468	12,102.50

※ () は直轄砂防内数 平成7年3.31現在

火山砂防事業

火山地帯は観光資源が豊富で、リゾート開発が盛んであるが、火山活動や集中豪雨による被害も顕著であるので、総合的な対策でこれらに対応するため、通常砂防から独立させた事業である。



鹿角市・熊沢川



象潟町・奈曾川

火山噴火警戒避難対策事業

火山噴火等に起因する火山泥流、火砕流、溶岩流等の突発的かつ大規模で広範囲におよぶ異常な土砂の流出による災害から人命を守るためソフト対策を実施することにより、地域住民の警戒避難体制の整備を図ることを目的とする事業である。

第8次治水事業五箇年計画（平8～12年度）の3本柱の一つである「危機管理施策の展開」に基づくものであり、本県では鳥海山及び秋田焼山の二火山が対象となっている。



火山地域における総合的な土砂災害対策のイメージ

水と緑の砂防モデル事業

自然景観の優れた地域等において、景観にマッチした砂防事業を行なうことによって、水と緑とを調和させ、水に親しむ機会を創出する。



八森町・杉ノ沢川

砂防環境整備事業

流路工等砂防設備内で環境整備のための基盤整備を行なうことによって、良好な水辺空間創出に資するものである。



千畑町・丸子川

砂防コミュニティ事業

地域における砂防設備を核とした安全で快適なまちづくりを積極的に展開するため、従来モデル的に実施してきた事業を総合的に実施し、国土保全と調和した地域開発を誘導し、都市環境の改善を図るとともに、地域の活性化に寄与する砂防事業を促進する必要がある。



横手市・清水沢川

3. 地すべり対策事業

本県の地すべりは第三系の台島、西銅沢層のいわゆるグリーンタフと女川層の頁岩および泥岩の地質に多く発生しており、これらの発生地域は、出羽丘陵の南北両端と奥羽背梁山脈の西縁にある男鹿半島に集中している。

この対策として昭和28年度から防止工事に着手し、平成6年度まで事業費約182億1千万円をもって64箇所に着手し、内39箇所を概成している。

(地すべり対策事業の推移・公共事業)

事業名	平成2年度		平成3年度		平成4年度		平成5年度		平成6年度	
	工事箇所数	うち概成数	工事箇所数	うち概成数	工事箇所数	うち概成数	工事箇所数	うち概成数	工事箇所数	うち概成数
地すべり対策工事	19	1	22	3	21	—	20	—	21	1
事業費	1,343,600千円		1,465,300千円		1,764,000千円		1,320,000千円		1,213,350千円	

◎備考…… 概成数以外は翌年度へ工事を継続するものである(緊急事業を含む)。

(地すべり防止区域指定一覧表)

水系名	箇所数	面積 (ha)	概成箇所数	面積 (ha)
(一級水系)	53	1,673.77	26	601.90
米代川	20	681.17	9	250.55
雄物川	17	542.78	8	177.37
子吉川	16	449.82	9	173.98
(その他水系)	8	147.33	7	136.93
(その他)	8	158.17	6	66.91
合計	69	1,979.27	39	805.74

平成7年3.31現在



東成瀬村谷地すべり全景



4. 急傾斜地崩壊対策事業

近年各地で急傾斜地の崩壊が頻発し、人命、財産に重大な被害をもたらしているが、政府においてもこの問題を重視し、昭和44年8月「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」を制定し防止工事の実施と併行して有害行為を規制するなど総合的な対策強化を計っている。

本県においては、昭和43年度から防止工事に着手し、平成6年度まで事業費約275億1千7百万円をもって318箇所擁壁工及び吹付工を施工し概成している。

(急傾斜地崩壊対策事業の推移・公共事業)

年度 事業名	平成2年度		平成3年度		平成4年度		平成5年度		平成6年度	
	工事 箇所数	うち 完成数	工事 箇所数	うち 完成数	工事 箇所数	うち 完成数	工事 箇所数	うち 完成数	工事 箇所数	うち 完成数
急傾斜地 崩壊対策 工	33	3	32	10	31	3	33	2	33	1
事業費	1,075,625千円		1,069,750千円		1,287,000千円		1,479,750千円		1,155,000千円	

◎備考…… 完成数以外は翌年度へ工事を継続するものである(緊急及び災害関連事業を含む)。

(急傾斜地崩壊危険区域指定箇所数)

地区名	箇所数	面積 (ha)	概成箇所数	面積 (ha)
鹿角	35	93.25	18	41.10
北秋田	60	87.87	52	65.11
山本	55	79.16	47	66.90
秋田	133	232.40	101	172.70
由利	69	129.56	38	62.32
仙北	40	36.87	28	29.14
平鹿	25	38.15	13	18.95
雄勝	42	71.10	21	37.93
計	459	768.36	318	494.15

平成7年3.31現在

◇公園と一体化して整備した急傾斜地崩壊対策工事



仁賀保町・清水地区

◇既存木を残し、うるおいのある緑の斜面空間を形成した急傾斜地崩壊対策工事



角館町・岩瀬地区

5. 雪崩対策事業

近年、各地の豪雪地帯で雪崩の災害が頻発し、人命、財産に重大な被害をもたらしている。この人命、財産を保護するため、昭和60年度から雪崩対策事業が実施されているところである。

本県においては、全国で5番目に多い1,123箇所の雪崩危険箇所を有し、昭和62年度から防止工事に着手し、平成6年度まで事業費約15億3百万円をもって5箇所に雪崩予防柵及び防護擁壁工を施工している。

(雪崩対策事業の推移・公共事業)

事業名	平成2年度		平成3年度		平成4年度		平成5年度		平成6年度	
	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数	工事箇所数	うち完成数
雪崩対策工事	4	—	4	1	4	—	4	1	4	—
事業費	158,000千円		198,000千円		279,000千円		279,000千円		251,000千円	

(雪崩危険箇所数)

地区名	箇所数
鹿角	76
北秋田	173
山本	76
秋田	199
由利	238
仙北	111
平鹿	71
雄勝	179
計	1,123

◇集落を保全する雪崩防止施設



増田町・滝の下地区